

標題 | 平成30年度松江大根島牡丹協議会総会にて高温乾燥対策を確認

(ダイジェスト)

平成30年8月6日、松江大根島牡丹協議会（足立利人会長、会員73名）の総会がJAしまねくにびき地区本部八束支店において開催されました。今年度は、秋にロシアへの輸出再開がある一方で、今夏の高温乾燥により地上部・地下部の生育不良が発生し、9月以降の牡丹苗出荷への影響が懸念されるため、ほ場の生育確認と灌水に努めることを確認しました。

総会の中で、新たな動きとして、平成28年度から停止していたロシア向け輸出が、今秋に試験出荷として再開することが報告されました。現在、アメリカ・オランダ・台湾等の諸外国へ輸出していますが、輸出先の拡大は生産農家にとっては大きな朗報です。

農業普及部からは、高温乾燥対策と根黒斑病対策について情報提供しました。

特に、今夏の高温乾燥の影響で、地上部の枯死・落葉と地下部の発根停滞が進行しており、8月3日に関係機関が実施した調査に基づき、品種毎の生育状況と灌水に努めることを確認しました。

[調査結果] ①乾燥程度；八束町ほ場が境港市ほ場より乾燥が進行

②接ぎ木後1年生牡丹（八束町）；最大ではほ場の2割程度が枯死

③1・2年生シャクヤク（境港市）；被害は比較的軽微

④品種により被害程度の違いあり

この他、高温乾燥が牡丹苗品質や接ぎ木の活着率への影響、また硬く乾燥したほ場での苗掘り作業に労力が掛かることへの懸念の声がありました。

8月中旬以降、苗掘取りや接ぎ木等の農繁期を迎えるに当たり、関係機関が連携し、産地支援をすることとしています。



地上部、地下部の被害状況を調査で確認



品種毎の生育確認と灌水を啓発